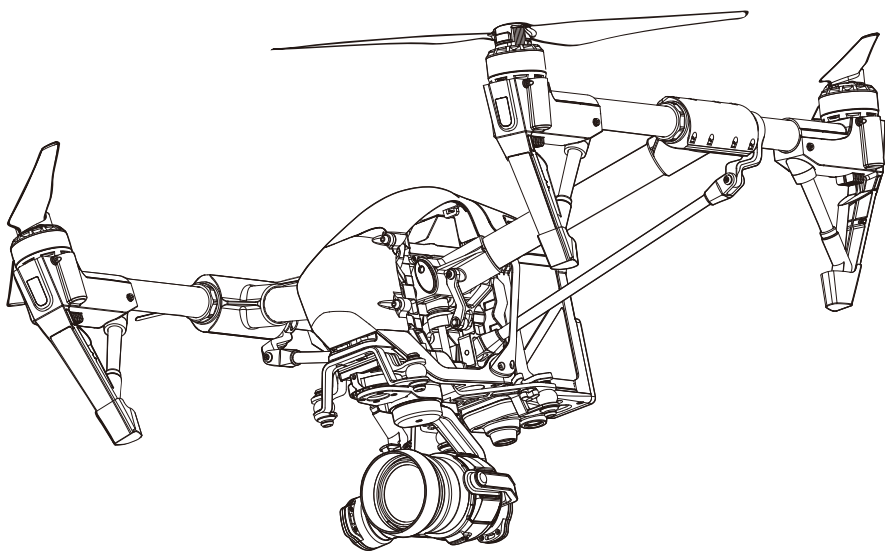


# INSPIRE 1 PRO

## クイックスタートガイド

V1.0

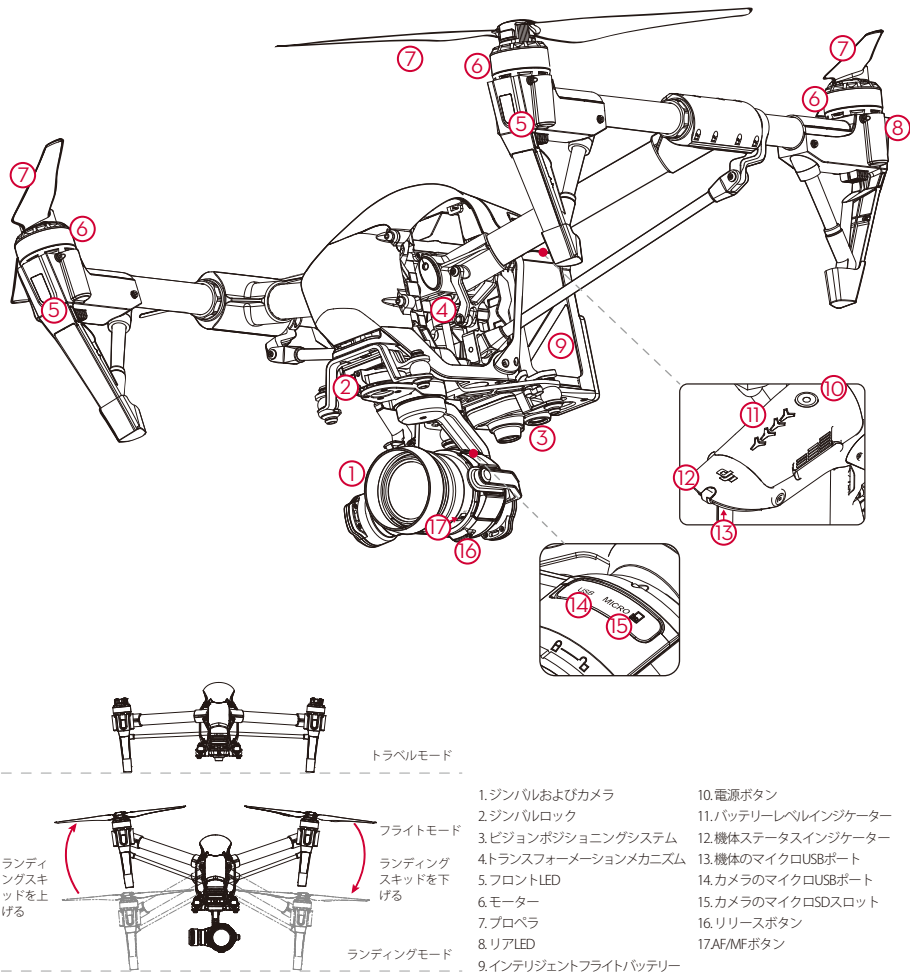


# INSPIRE 1 PRO

Inspire 1 Pro は、プロフェッショナルな空撮動画および空撮写真を実現するプラットフォームであり、購入後すぐに飛行を開始できます。機体には15mmF/1.7のレンズ（35mmフォーマットと30mm同等）と3軸で固定されたジンバルを備えたカメラが搭載されており、16MPの鮮明なスチール写真のほか、最大4Kの安定した動画撮影が可能です。上下に可動式のランディングギアにより、カメラから360° さえぎる物のない映像撮影を可能にしました。

高度なフライトコントローラーが、屋内でも屋外でも、Inspire 1 Pro の安定した安全かつ簡単な飛行を実現しています。また、新開発のビジョンポジショニングシステムにより、GPSなしの低高度飛行時でも安定したホバリングが可能です。すべてのDJIフライトコントローラーと同様に、送信機の信号が失われた場合やローバッテリー警告が発生した場合は、リターントゥーホームが作動します。

Inspire 1 Pro の最大飛行速度は18m/秒\*、最大飛行時間は15分（完全充電された4500mAhのインテリジェントフライトバッテリー1本を使用した場合）です。

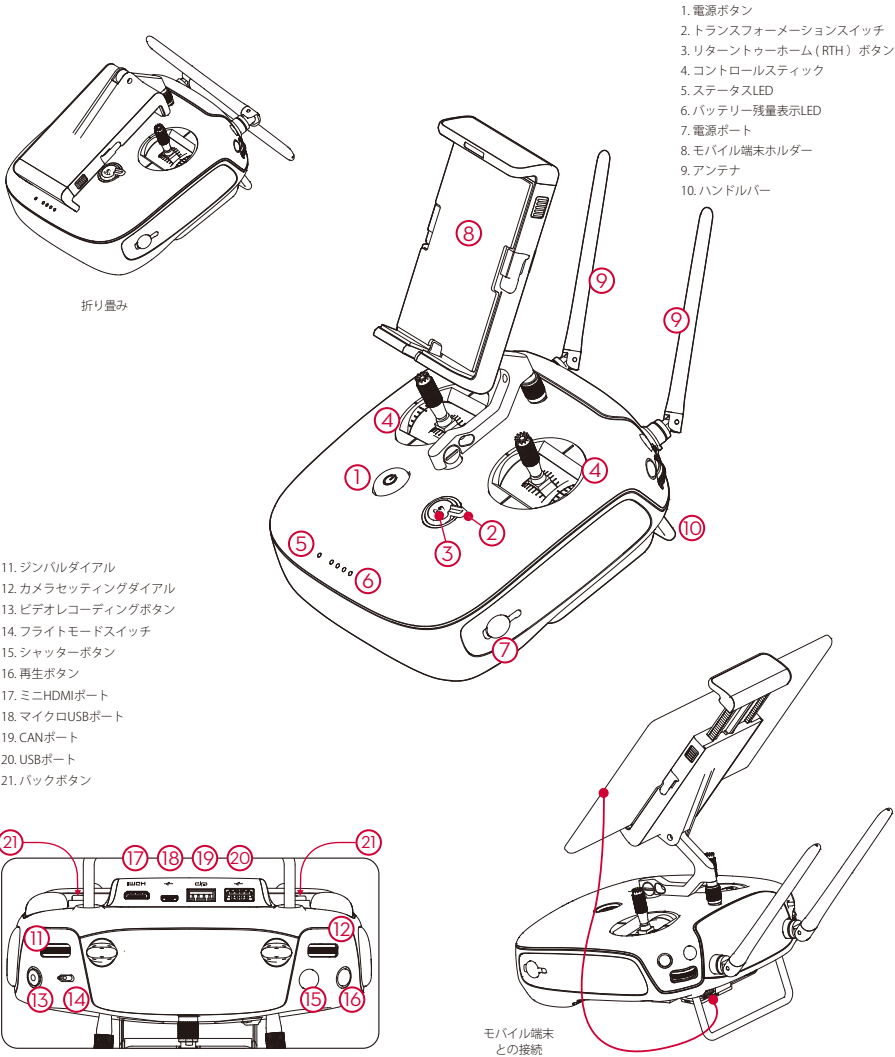


\* 最大飛行速度および最大飛行時間は、ラボ環境でテストした場合の数値です。これらの数値は飛行区域の条件によって変化するため、単なる参考値とお考えください。

# 送信機

Inspire 1 Proの送信機の最大伝送距離は2km\*です。送信機を使用して、ランディングギアを制御したり、タップ操作によってリターントゥーホーム機能を作動させたりすることもできます。また、写真撮影やビデオ録画、画像レビュー、ジンバル制御を簡単に実行できるボタンも用意されています。

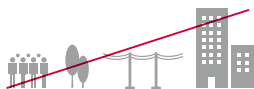
DJIライトブリッジベースのHDビデオダウンリンクが組み込まれているため、カメラの撮影対象をモバイル端末でリアルタイムにHD画質で確認できます。また、アプリを使用してカメラ設定を変更したり、マスター/スレプモードを作動させたりできるため、飛行操作とジンバルの制御を別々の人物が実行することも可能です。マスターおよびスレプのコントローラーは5.8GHzのワイヤレス信号を使用して通信を行い、相互の通信範囲は最大で50メートルです。コントローラーに搭載されたLiPoバッテリーの最大駆動時間は約4時間で、コントローラーに直接ケーブルを接続して充電できます。



\* 最大伝送距離は、ラボ環境でテストした場合の数値です。この数値は飛行区域の条件によって変化するため、単なる参考値とお考えください。

# 安全なフライト

安全で責任のある、そしてスマートな方法でフライトをお楽しみください。



**フライト禁止** 人の近く、人の上、樹木、電線、または建物の近く。



**高度を確認**

高度120メートル以下をフライトしてください。

安全のために、基本的なフライトガイドラインを理解してください。より詳しい情報は安全ガイドラインおよび免責条項を参照してください。



**フライト禁止** 雨、雪、霧、および風速10m/sまたは22mph以上。



**目視の範囲で飛ばす**

建物の裏をフライトしないでください。また、障害物で視界を遮られないようにしてください。



**フライト禁止区域**

より詳しい情報は:  
<http://flysafe.dji.com/no-fly>



- 機体やバッテリーの性能は、空気密度や温度などの環境要因で変化します。海拔14700フィート(4500メートル)以上を飛行する際はバッテリーや機体性能が低下するのでご注意ください。
- 極地ではPモードを使用したりGPSを使用する事は出来ません。ATTIモードおよびビジョンポジショニングを使用してのフライトは可能です。

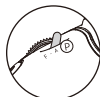
## ● コンパスキャリブレーション

新しい場所でフライトを行うたびにコンパスキャリブレーションを必ず行ってください。コンパスは電磁気の干渉にとても敏感です。電磁気の干渉がコンパスエラーを引き起こし、フライトパフォーマンスの低下や時には墜落という事態を招くことになります。安全運用の為に、正しくキャリブレーションが行われる必要があります。

- 磁鉄鉱、立体駐車場、および鉄筋コンクリート製地下室など、強い磁気の干渉がある場所でコンパスのキャリブレーションを行わないでください。
- キャリブレーションの最中に鍵や携帯電話など強磁性の物を携帯しないでください。
- 大きな金属製物体のとなりでキャリブレーションを行わないでください。
- フライトステータスLEDが赤く点灯している場合、再度キャリブレーションを行ってください。機体を地面に置いたあとにLEDが赤と黄色に交互に点滅している場合、コンパスは電磁気の干渉を検知しています。場所を変えてください。

## ● Pモード

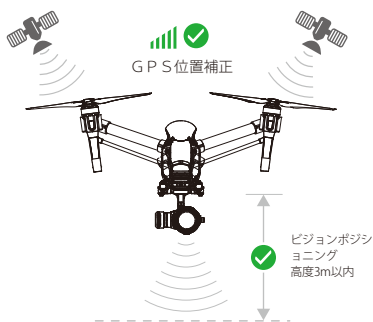
Inspire1 Proはこのモードの時、強いGPSシグナルがあり、ビジョンポジショニングシステムを使うことで、屋内および屋外の正確な位置でホバリングさせることができます。また、屋外ではこのモードはホームポイントがロックされていることを意味し、コントロールシグナルを失った場合にリターントゥーホームすることがあります。



このモードではない場合、フライトモードスイッチをPポジションに切り替えると有効になります。フライトモードスイッチはデフォルトでPモードでロックされています。スイッチのロックを解除する方法については、ユーザーマニュアルを参照してください。

Pポジションには3つの状態があります。

**P-GPS:** GPSシグナルは屋外のひらけた場所ですく受信することができます。Inspire1 ProはGPSシグナルが強いときにGPSを使って所定の位置でホバリングします。**P-OPTI:** GPSシグナルが無いとき、機体は正確にホバリングするためにビジョンポジショニングシステムを使用します。**P-ATTI:** GPSおよびビジョンポジショニングシステムのどちらも有効ではない場合、機体は気圧センサーのみを使用するで、高度のみ保たれます。Inspire1 Proが水の上、明確なパターンのない地面の上、または暗い環境を飛行する場合、ビジョンポジショニングシステムが正常に働かないことがあります。

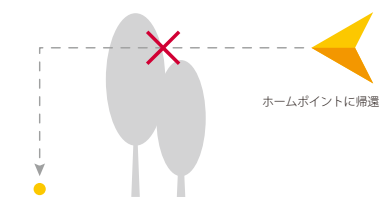


## ● リターントゥーホーム

GPSシグナルが強い場合、機体はホームポイントを記録し、必要の際はホームポイントに帰還することができます。DJI GO appのGPSシグナルアイコンが黄色または緑のときにGPS位置情報が記録されます。

次の場合において、機体はホームポイントに自動的に戻ってきます。(強いGPS信号が必要です。)

**スマートRTH:** リモートコントローラーまたはアプリのRTHボタンを押した時。ローバッテリーRTH: バッテリー電圧が特定の閾値まで低下した場合、DJI GO appが必要な行動をとるように促します。フェイルセーフRTH: リモートコントローラーシグナルが失われたとき。



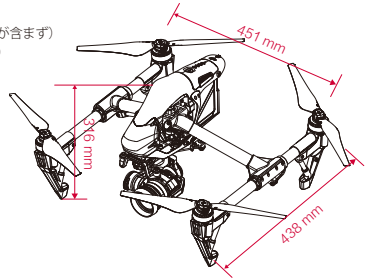
- ホームポイントに戻っている間、ユーザーは障害物を避けるために機体の高度を調整することができます。高層ビル群が送信機のシグナルに影響を与える場合があります。フェイルセーフRTHの手順は、シグナルが失われた場合に発生します。衝突を避けるため、付近の建物よりも高い位置で飛行させてください。



# スペック

## ● 機体 (モデル: T600)

重量	2870 g (バッテリー、プロペラ装着時、Zenmuse X5が含まず)
重量	3400 g (バッテリー、プロペラ、Zenmuse X5装着時)
最大荷重	3400 g
最大チルト角	35°
最大上昇速度	5 m/s
最大下降速度	4 m/s
最大速度	18 m/s (ATTIモード、無風の場合)
海面からの最大高度	4500 m
最大飛行時間	約15分 動作温度範囲
動作環境温度	-10° C ~ 40° C



## ● ジンバル

角振動範囲	±0.02°
操作可能範囲	ピッチ: -90° ~ +30° パン: ±320°
最大操作可能速度	ピッチ: 120° / s パン: 180° / s

## ● ビジョンポジショニング

速度範囲	<8 m/s (高度2 m)
高度範囲	5 cm ~ 500 cm
動作環境	明確なパターンを持つ表面と十分な明るさ (>15ルクス)
動作範囲	<300 cm

## ● カメラ (名称/モデル: ZENMUSE X5/FC550)

センサー	Type 4/3 CMOSセンサー、有効画素数: 16M
レンズ	DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH (FOV72° 35 mm形式に相当: 30 mm)
ISOレンジ	100-25600
電子シャッター速度	8 s〜1/8000 s
画像最大サイズ	4608×3456
スチール写真モード	シングル撮影、バースト撮影: 3/5/7フレーム オートエクスポージャーブラケティング (AEB): 0.7EV/バイアスでの3/5ブラケットフレーム、
タイムラプスビデオ録画モード	UHD: 4K (4096×2160) 24/25p; 4K (3840×2160) 24/25/30p; 2.7K (2704×1520) 24/25/30p FHD: 1920×1080 24/25/30/48/50/60p
最大書き込み速度	60 Mbps
サポートされるファイル形式	FAT32 (≤ 32 GB); exFAT (> 32 GB)
静止画	JPEG、DNG
動画	MP4/MOV (MPEG-4 AVC/H.264)
サポートされるSDカードタイプ	マイクロSD、最大容量: 64GB、クラス10またはUHS-1規格必須
動作温度範囲	0°C〜40°C

## ● 送信機 (名称: C1)

動作周波数	922.7 MHz ~ 927.7 MHz (日本のみ) 5.725 GHz ~ 5.825 GHz 2.400 GHz ~ 2.483 GHz
伝送距離	2 km (屋外でさえぎる物がない場合)
ビデオ出力ポート	USB、ミニHDMI
動作温度範囲	-10° C ~ 40° C
バッテリー	6000 mAh LiPo 2S

## ● 充電器 (モデル: A14-100P1A)

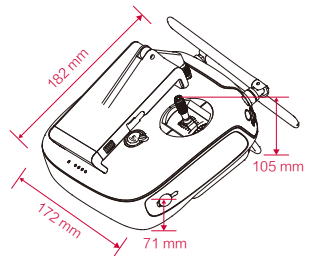
電圧	26.3 V
定格電力	100 W

## ● インテリジェントフライトバッテリー (モデル: TB47、標準)

容量	4500 mAh
電圧	22.2 V
バッテリータイプ	LiPo 6S
高電圧バッテリー	
出力	99.9 Wh
重量	570 g
動作温度	-10° C ~ 40° C
最大充電電力	180 W

## ● インテリジェントフライトバッテリー (モデル: TB48、オプション)

容量	5700 mAh
電圧	22.8 V
バッテリータイプ	LiPo 6S高電圧バッテリー
出力	129.6 Wh
重量	670 g
動作温度	-10° C ~ 40° C
最大充電電力	180 W



CE 1313 RoHS

FCC ID: S53-WM6101410 FCC ID: S53-GL6581502

This device complies with part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

(1) This device may not cause harmful interference, and  
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

※ このクイックスタートガイドは、事前の予告なく変更される場合があります。

# INSPIRE 1 PRO の使用

Inspire 1 Proを初めて使う前に、DJI公式Webサイトでビデオチュートリアルをご覧ください。また、『Inspire 1 proクイックスタートガイド』、『免責事項』、『インテリジェントフライトバッテリーセーフティガイドラン』、『Inspire 1 proセーフティガイドラン』、『同梱物』、『Inspire 1 proユーザーマニュアル』の各文書をお読みください。

## 1. DJI GOアプリのダウンロード

App StoreまたはGoogle Playで「DJI GO」を検索し、モバイル端末にアプリをダウンロードしてください。



DJI GO app



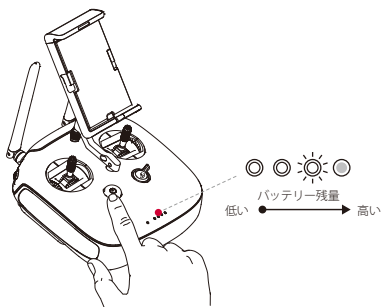
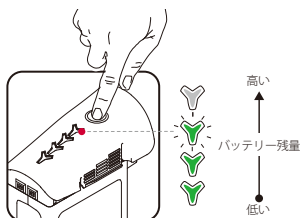
チュートリアルビデオ

## 2. チュートリアルビデオの視聴

www.dji.com またはDJI GOアプリで、チュートリアルビデオをご覧ください。

! • 最良のユーザー体験を実現するため、iOS 8.0以上またはAndroid 4.1.2以上を搭載したモバイル端末を使用してください。

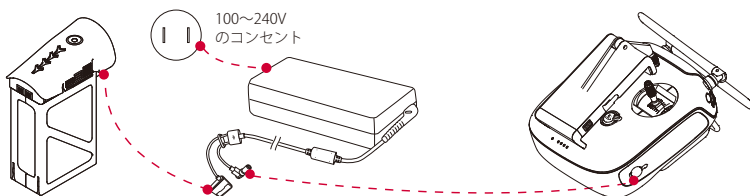
## 3. バッテリーレベルの確認



- 1. 1回押して、バッテリーレベルを確認します。
- 2. 2回押して長押しし、電源をオン/オフにします。

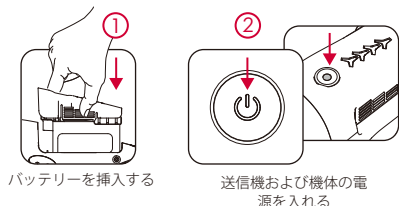
! • 初めて使用する前に、インテリジェントフライトバッテリーを完全に充電しておく必要があります。

## 4. 充電



- !
- インテリジェントフライトバッテリーおよび送信機の充電には、必ず正規品のDJI Inspire 1 Pro充電器を使用してください。
  - 充電が完了するとバッテリーへの給電が自動的に停止し、ステータスLEDが赤から緑に変化します。

## 5. 機体の準備

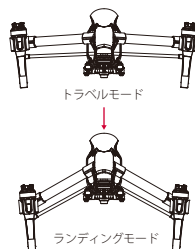


バッテリーを挿入する

送信機および機体の電源を入れる



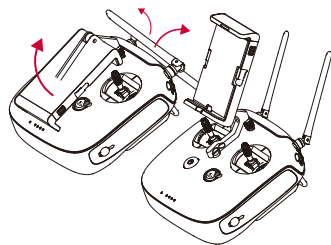
機体をランディングモードに変更する



- !
- デュアル送信機バージョンを購入した場合は、マスター送信機を使用してトラベルモードを解除する必要があります。
  - 手順を繰り返して、機体をトラベルモードに変更します。


## 6. 送信機の準備

モバイル端末ホルダーを目的の位置まで傾けて、図に示すようにアンテナを調整します。アンテナの位置を変えると、送信機のシグナルの強さも変わります。



- ① モバイル端末ホルダー側面のボタンを押して、クランプを解放します。
- ② お使いの端末をクランプに配置し、しっかりと固定されるようにクランプを調整します。
- ③ USBケーブルを使用して、モバイル端末を送信機に接続します。ケーブルの一端をモバイル端末に接続し、もう一端を送信機背面のUSBポートに接続します。

デュアル送信機を備えたInspire 1 Proを購入した場合は、電源を入れるとマスター送信機が自動的に機体に接続します。マスター/スレーブモードは、デフォルトでは無効になっています。モードの有効化と設定は DJI GOアプリを使用して実行します。

マスター送信機とスレーブ送信機の接続:  
マスター送信機でDJI GOアプリを起動し、カメラページに移動します。次に画面上部の  をタップして、送信機の設定ウィンドウを表示します。“Activate Master/Slave Mode”をタップして、“Master”を選択します。次に、“Slave”送信機に対して設定する任意の接続パスワードを入力します。  
スレーブ送信機で“Slave”を選択し、“Search”をタップしてマスター送信機を検索します。“Master RC List”から“Master”送信機を選択して、接続パスワードを入力します。

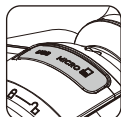
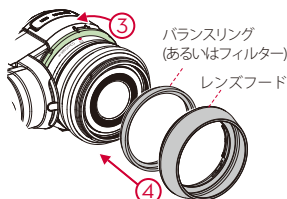
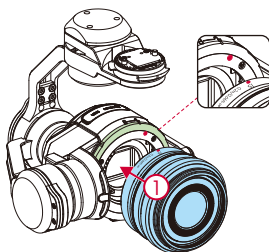
### DJIフォーカスのご使用



DJIフォーカスを使用し、遠距離でカメラレンズを調整することが可能です。詳細については、<インスパイア1 Proユーザーメニュー>と<DJIフォーカスユーザーメニュー>をご参照ください。


 ・シグナルの干渉を避けるため、2.4GHzの装置を同時に使用しないでください。

## 7. カメラの取り付け

- ① カメラ本体のキャップ、レンズキャップ、リヤキャップを取り外します。2つのレンズマウントインデックスをカメラ本体およびカメラレンズに合わせ、カメラレンズをカメラの本体に挿入します。
- ② メラレンズに合わせ、カメラレンズをカメラの本体に挿入します。
- ③ カメラレンズを、カチッと言がするまで時計回りに回します。レンズロックを反時計回りに回してロックします。
- ④ バランシングリング（あるいはフィルター）とレンズフードを取り付けます。マイクロSDカードを挿入します。



-  カメラの使用時はレンズロックを反時計回りに回して、レンズとカメラ本体の接合部を締め付けます。
-  カメラの取り付け時および取り外し時はレンズロックを時計回りに回して、レンズとカメラ本体の接合部を緩めます。

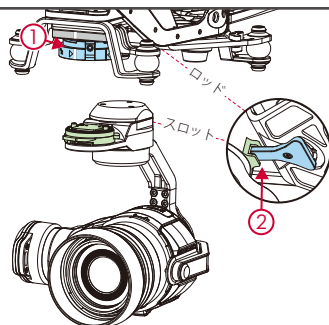
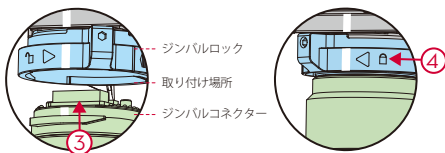
-  ・カメラレンズは常にAFモードに設定してください。
- ・リリースボタンを押しながら、カメラレンズを反時計回りに回して取り外します。
  - ・レンズフィルターやバランシングリングに必ずマウントしてください。

AF  MF

## 8. ジンバルおよびカメラの取り付け

機体の電源がオフになっていることを確認します。

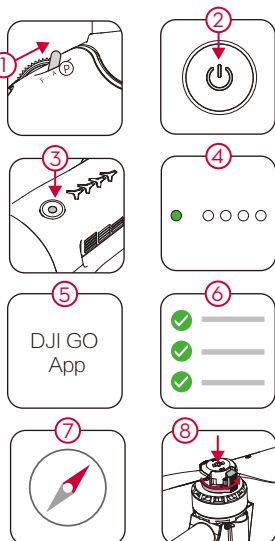
- ① ジンバルロックを回して解除位置に合わせます。
- ② ジンバルのパンモーターのスロットにダンピングプレートにロッドを挿入します。
- ③ ジンバルコネクターの白い線をジンバルロックと合わせて、ジンバルコネクターを挿入します。
- ④ ジンバルロックを回してロック位置に合わせ、ダンピングプレートのレバーを中央にスライドさせます。



## 9. フライトの準備

開けた場所の平坦な面に、裏面を上に向けて機体を置きます。

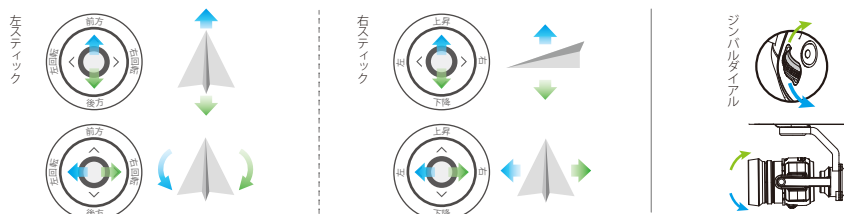
- ① フライトモードスイッチを右に動かして、Pモードを選択します（Pモードはポジショニングモード、AモードはATTIモード、Fモードは機能モードを意味します）。
- ② 送信機の電源を入れます。
- ③ 機体の電源を入れて、セルフチェックが完了するまで待機します。セルフチェックの実行中は、機体を動かさないでください。
- ④ フライトの前に、送信機が機体にリンクされていることを確認します。接続に失敗する場合は、送信機を機体に再リンクします。リンクする方法については、『Inspire 1 proユーザーマニュアル』を参照してください。
- ⑤ 送信機とモバイル端末がUSBケーブルで接続されていることを確認します。機体に初めて接続する場合は、DJI GOアプリを起動してアプリ内の説明に従います。
- ⑥ DJI GOアプリを起動して、“Camera”をタップします。チェックリストに記入しながら、機体が正常に動作することを確認します。DJI GOアプリを初めて起動する場合は、デフォルトでビギナーモードが有効になっています。ビギナーモードでの飛行時は、機体の高度と飛行距離が制限されます。機体を初めて使用する場合は、ビギナーモードで飛行させることをお勧めします。ビギナーモードは、DJI GOアプリの設定ページで無効にできます。
- ⑦ アプリで機体のステータスバーをタップし、“Calibrate”を選択することで、コンパスのキャリブレーションを実施します。選択したら、画面上の指示に従います。
- ⑧ 1345Tプロペラの場合は、白い点の付いているプロペラを白い点が付いている取り付けプレートに取り付け、赤い点の付いているプロペラを赤い点が付いている取り付けプレートに取り付けます。プロペラを取り付けプレートに押し込み、しっかり固定されるまでロック方向に回します。



- Pモードではない場合、Inspire 1 Proは高度だけを維持し、位置を保持しないため、風やユーザー入力によって位置が変わります。リターントゥーホームは、Fモードでは使用できません。
- Zenmuse X5と組み合わせて使用する場合は、急激な電力低下によって危険な状態に陥る可能性があるため、機体が完全に充電されていることを確認してください。

## 10. リモートコントローラーの操作

リモートコントローラーは出荷時はモード1に設定されています。（スロットルは右側のスティックでコントロールします）ジンバルダイヤルを使ってカメラのチルト操作を行います。



- DJI GO appを使って、リモートコントローラーを異なるモードに設定することができます。

## 11. フライト

### Safe to Fly (GPS)

離陸する前に、DJI GOアプリの機体ステータスバーに「Safe to Fly (GPS)」と表示されていることを確認します。そうでない場合、機体は所定の位置でホバリングできず、ホームポイントを記録できません。

#### ● 自動的な離陸と着陸:



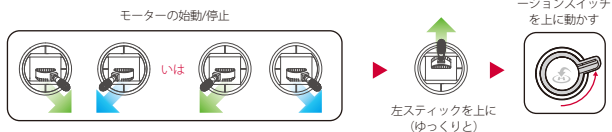
をタップして、選択を確認します。自動離陸をタップして確定すると、機体は自動的に離陸してランディングギアを上昇させ、1.2メートルの高さでホバリングします。



をタップして、選択を確認します。ランディングギアが下降して、機体は自動的に着陸します。

#### ● 手動による離陸と着陸:

両方のコントロールスティック下方内側（または外側）の隅に倒して、モーターを始動します。スティックを離すと、モーターが始動します。左側（スロットル）スティックをゆっくりと上に倒して離陸します。離陸したら、トランスフォーメーションスイッチを上に動かしてランディングギアを上昇させます。



左側（スロットル）スティックを下に倒し、機体が地面に接触するまで高度を下げます。両方のスティックを下方内側の隅に倒して、モーターを停止します。

左スティックを下に (ゆっくりと)



フライト後は、機体をトラベルモードに戻します。この手順は、浜辺や芝生の上、単色のカーペットの上に実施しないでください。手順が完了したら機体を平坦な面に置き、持ち運びできるようにジンバルとカメラを取り外します。



- 機体のステータスバーが緑色の場合のみ離陸することを強くお勧めします。
- 致命的なローバッテリー警告が発生している場合、機体は離陸できません。
- 外気温が低い場合は、インテリジェントフライトバッテリーをウォームアップしておく必要があります。警告は、DJI GOアプリに表示されます。
- プロペラの回転は危険を伴う場合があります。付近に人がいる場合はモーターを始動しないでください。また、必ず開けた広い場所で飛行させてください。
- 飛行中はモーターを停止しないでください。モーターが止まるまでに、手をリモートコントローラーと離さないでください。着陸させた後、まず機体の電源を切り、その後送信機のスイッチをオフにします。

#### ● リターントゥーホーム

1. ボタンの周りのLEDが白く点滅するまでリターンホームボタンを長押しすると、リターントゥーホームを開始します。もう一度押すと停止します。



RTHボタン



アプリのRTHボタン

2. バッテリーレベルが特定の閾値まで低下すると、DJI GO appがユーザーに何らかの行動をとるように通知します。この警告閾値はDJI GO appから設定することができます。致命的なローバッテリーレベル警報に達するたびに機体は着陸します。
3. フェイルセーフ: リモートコントローラーがシグナルを失ったとき、Inspire1 ProはRTHモードに入ります。



- ホームポイントに戻っている間、ユーザーは障害物避けるために機体の高度を調整することができます。

## 付録

### 機体 ステータスインジケータの説明

- ☀ ... 遅い点滅: Safe to Fly, GPS動作中
- ☀x2 ... 2回点滅: ビジョンポジショニングシステム動作中、GPSなし
- ☀ ... 遅い点滅: P-ATTIまたはATTI
- ☀ ... 速い: リモートコントローラーがリンクされていない
- ☀ ... 遅い点滅: ローバッテリーレベル警告
- ☀ ... 速い点滅: 致命的なローバッテリーレベル
- ☀ ... ベル警告 点灯: 致命的なエラー
- ☀ / ☀ ... 交互に点滅: コンパスのキャリブレーションが必要

### 送信機のステータスLED

- 機体に接続していない
- 機体に接続している。機体も正常である
- RCスレーブモードで、機体に接続されていない
- RCスレーブモードで、機体に接続されている
- B-B-B... ローバッテリー警告/エラーが発生
- B—B—B... 5分間機体を置く
- ●●●●● ビデオダンパーリンクエラー
- 〇 帰還機能を起動する
- B... 帰還を請求する
- BB ... 帰還中

### カメラの使用

- 送信機のカメラ設定ダイヤルまたはDJI GOアプリを使用して、カメラパラメータを調整します。シャッターボタン/ビデオ録画ボタンを押して、静止画または動画を撮影します。
- ジンバルのチルトは、ジンバルダイヤルを使用して調整します。
- DJI GOアプリを使用して、SDカードからモバイル端末に写真や動画をダウンロードします。SDカードリーダーを使用して、PCにファイルをエクスポートすることもできます。

※ このクイックスタートガイドは予告なく変更となることがあります。

詳しい情報についてはこちらをご覧ください:

[www.dji.com/product/inspire-1-pro-and-raw](http://www.dji.com/product/inspire-1-pro-and-raw)



# INSPIRE 1 PRO

Creativity Unleashed